

小学校教科等研修講座(社会科)

教科等指導員 鴻池小学校 教諭 宗野 伸哉

担当指導主事：上野 みづほ

キーワード：授業、子どもの活動、資料活用

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
11月8日(火)	有岡小学校 田中 敬造 校長 摂陽小学校 野崎 彰 教頭 有岡小学校 又吉 全道 教諭 花里小学校 前田 昌彦 教諭	総合教育センター 2階研修室 講義	「資料を活用した社会科学習の授業実践」
12月9日(金)	兵庫教育大学 副学長 米田 豊 氏 授業者：緑丘小学校 井上 和也 教諭	緑丘小学校 研究授業・事後研究	「私たちの住んでいる兵庫県（第4学年）」

2 主な内容

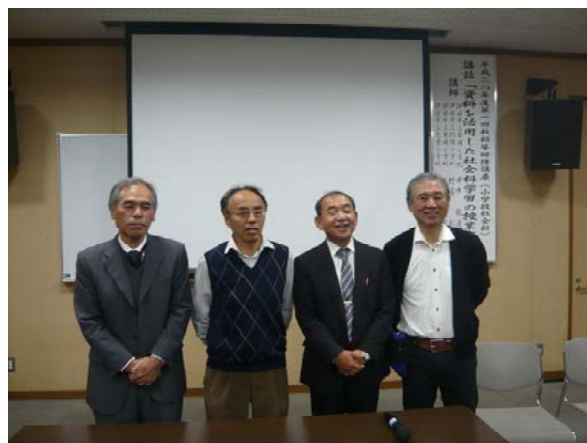
(1) 「資料を活用した社会科学習の授業実践」

社会科学習を行う際に必要不可欠である資料の内容や提示方法、活用方法について、4人の講師から様々な授業実践をとおしてお話していただいた。

まず、花里小学校の前田教諭に第4学年の「わたしたちの住んでいる県」で行った授業実践を例に、47都道府県について、視写したり特産品などを盛り込んだリズムを活用したりして覚える方法を紹介していただいた。

次に、有岡小学校の田中校長が第6学年の歴史学習における資料の効果的な活用方法を紹介され、児童の豊かなイメージを生み出すために、資料は目的によって精選することが大切だと考えることができた。また、できるだけ生の資料(実物)を用意することによって児童の興味関心を高めることができることを、実物の「地券」を使った授業実践を紹介していただくことで実感することができた。

また、有岡小学校の又吉教諭に第6学年の「世界に歩み出した日本」の授業実践を紹介していただいた。治外法権や関税自主権、ノルマントン号事件という事実だけを教え込むのではなく、「ビゴーの風刺画」を単元導入時に提示し、資料から読み取れることや児童が予想したことについて事実を踏まえて考えていくことで児童の興味関心を高め、「なぜ？」という学習課題につな



げていく例を紹介していただいた。

最後に、摂陽小学校の野崎教頭に第4学年の単元「郷土を開く一行基と昆陽池」の授業実践を、実際に授業の流れをどのように組み立てるかというグループワークを行いながら、紹介していただいた。

授業実践では、社会科は事実を教え込むのではなく、児童に考えさせることが重要であるということが共通していた。そのために資料は必要不可欠であり、より良い提示方法や活用方法について、みんなで考えを深めることができた。

(2) 「私たちの住んでいる兵庫県（第4学年）」

今回の授業では、「姫路市の観光案内所に、外国人専用のパンフレットが無料で配布されている理由」を扱った。まず、前時の復習として姫路城が世界文化遺産になったことや昨年の観光客が約287万人訪れたことを確認した。次に、姫路駅近くの観光案内所に置いている外国人向けのパンフレットを提示し、それらが約900万円のお金をかけて作製され、無料で配布されていることを確認した。そして「姫路市の観光案内所には、なぜ、外国人観光客専用のパンフレットが準備され、無料で配布されているのだろう」という本時の目標につながる学習課題を提示した。児童は、「外国の方でも読めるものを配るため」「姫路城以外の場所にも行くから、買い物をしてお金を使ってほしいため」などの予想を立てた。その後、予想の根拠を明らかにする仮説を設定した。



事後研究協議では、課題設定や資料の活用方法についてを中心に討議を行い、「なぜ疑問」の中にたくさんの要素が入っているので、精選すべきだったかもしれないという意見や課題解決のための資料として提示したパンフレットはすべて外国語で書かれていたので、児童には読み取る事が難しかったのではないかという意見が出た。そして、目標を達成するための課題設定の仕方考えたあと、資料の活用方法について検討し、2種類のパンフレットを用意して比較させることで、児童に指標或いは視点を考えさせることができるのではないかと意見がまとまった。講師の米田氏からは、本時は「なぜ疑問」の答えを出すことを目標としていないため「このなぜ疑問について予想を立てよう」や「予想を確かめるための資料を探そう」などの児童の活動を学習課題として提示することが望ましいという指導助言をいただいた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 授業における資料の内容や提示方法・活用方法を考え、授業構成について研修を深めることができた。
- ② 実物教材の有効性を理解することができた。
- ③ 学習課題の設定の仕方や課題解決のための手立てを考えることができた。

(2) 課題

- ① 今後も資料活用の仕方や授業構成についての研修会を実施し、教員の指導力向上を図る必要がある。
- ② 教員の授業力を向上させるために、研究授業を継続して実施することで実質的な研修を深めていく必要がある。